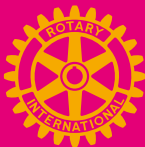


Rotary



白河西ロータリークラブ

SHIRAKAWA WEST ROTARY CLUB

創立 1986 年



ロータリーは機会の扉を開く

2020-21年度国際ロータリーテーマ

2020～2021年度クラブ目標

『35年目の再構築 ロータリーの源流へ』

会長 吉野敬之
幹事 堀田一彦



第1636回例会

令和2年9月10日 (18:30～19:30)

○ソング

- 四つのテスト

○スマイルBOX

- 吉野敬之会長（本日ホームミーティングの発表をいただいた皆様、有難うございました。大変興味深く拝聴させて頂きました。私事では有りますが念頭のゴルフ80切りをさせて頂きました。会長就任よりうれしかったので多めにスマイルいたします。）
- 堀田一彦幹事（とりあえずスマイルします。）
- 金田昇会員（ホームミーティング、藤田班長お世話になりました。楽しい時間を過ごせました。）
- 永野文雄会員（事務局大竹さん久しぶりです。ホームミーティング発表の皆様ありがとうございました。）

▶第1636回例会出席状況 (R2年9月10日)

Ⓐ 出席免除を受けていない正会員数	44名
Ⓑ 出席免除の適用正会員数	14名
Ⓓ 全正会員数	58名
Ⓒ ①の出席者数	23名
Ⓔ ①のメイクアップ者数	0名
Ⓕ ②の出席者数	9名
Ⓖ = ③ + ④ + ⑤ (メイクアップ補填後の出席会員数)	32名
Ⓗ = ⑥ - (⑦ - ⑧)	53
Ⓘ = ⑥ / ⑨ × 100 (例会出席率)	60.38%



▶例会日：第1・第3木曜日 (12:30) その他の木曜日 (18:30～19:30)

▶例会場：白河市新白河駅前 東京第一ホテル新白河

▶事務局：〒961-0957 福島県白河市道場小路96-5 (白河商工会議所内) ☎23-3101 FAX22-1300

本日のプログラム

■会長の時間

吉野敬之会長

皆さん、こんばんは。本日も、例会に多数ご出席いただきましてありがとうございます。仕事がなかなか忙しかったりするといろいろ心に余裕がなくなるものですが、まさに今日わたくし非常に仕事何かとばたばたとしておりまして、上着を着てくるのを忘れたなというふうに、忙しいと思ったら大住由香里さんみたいに実働が非常に忙しい中、毎回毎回例会に出て来てくれる方には申し訳ないということになるんですが、会長の時間も毎回毎回何かしらこんなことをお話ししようとは思っては来るのですが、あまり準備がなくてちょっと雑談めいた話になるかもしれないですけど、わたくし2年程前から一日一善活動というのをしております。これは具体的にこれをやるあれをやるということではなくて、例えば道を走っていて左車線から合流する車が来たらちょっと入れてあげるとか。今までは多分止まらなかったものを、ちょっと止まって入れてあげようとか、そういうほんのちょっとした事なんですけど、一日何かしら良い事を自分が良いと思える事をしようということを中心掛けています。大した進歩はないんですが、意外とこれ精神的に自分が良い事をしたなというふうになると、多少なりとも一日機嫌よく陽気に過ごせるなというふうになんてちょっとづつ思い始めています。前にもお話ししましたが、船井総研セミナーとかそういったところで宝石とか接客の勉強会なんかに行きますと、割とそんなこともお話をされるんですが、意識が変われば行動が変わる、行動が変われば結果が変わる、結果が変われば更に意識が変わるといふふうに、これは正のサイクルというんですかね。どんどん自分が自己肯定をして自分はこういうふうになれる、こういうふうによれた、だから次もこうなるだろうというようにやっていると、ちょうど2年前というのが大体ロータリーの会長に内定をした時期でございまして、私は少しは人のためになれるような人間になろうかなというふうに思いながらそんなことを続けてまいりました。確かに、ちょっとしたことを意識を変えるとさっき言ったみたいに気分も良くなるし、ロータリーという超我の奉仕というんですかね。私が勉強して教えていただいたのは、やっぱり似たような超我の奉仕みたいな形の話なんですけども、すべてはやっぱり相手に対して奉仕をしてそれによって相手に感謝されることが人生最大の喜びだし、そういった奉仕をされてくるのが、仕事、生活、すべてにおいて向上していく源になりますよ。これは私が聞いた時にはお釈迦様のお話、考え方から出てきてい

る言葉らしいですけども、割といろんな勉強会に行くと言いは別々なんですけどそんな話をよく聞くので、皆様も多分そういった意識改革をされて今に至っていらっしゃるんだと思うんですけども、もしちょっとでも気になった方がいたらそんなふうに思っただけでもいいなというふうに思いました。私がロータリーに入っていると思うんですが、何故か安部先生が会場にいらっしやると非常に落ち着くんですね。不思議ですね。ビタミン剤というのは薬じゃなくて、やはり人なんだなというところがありました。不思議なんです、入会した頃から安部先生が会場にいると妙に落ちつくんです。なんかあれば安部先生の話をする、みんな不思議とやっぱり安部先生の性格なんですかね、名前を出しただけでクスクス笑いがもれるという、多分それだけ敬愛されてるんだと思います。そういう晴らしい先輩方に支えられたのも、きつとこういうふうな一日一善活動やそういう事をしてきた結果、結ばれた縁だというふうに思っております。なんか雑然としたお話でまとまりがなく大変申し訳ございません。くれぐれも安部先生のご健康をお祈りして、今日も会長の時間とさせていただきます。

■幹事報告

堀田一彦幹事



○国際ロータリー第2530地区ガバナー事務所：青少年奉仕委員会セミナーについて

○国際ロータリー第2530地区ガバナー事務所：公式訪問について

○東白川ロータリークラブ：年次計画書

○ロータリー文庫運営委員会：ロータリー文庫開館時間のご案内

○(公社)日本ユネスコ協会連盟：2019年度活動レポート

■本日のプログラム

ホームミーティング報告

○第1班

諸橋和典会員



皆さん、こんばんは。第1班書記の諸橋です。6月10日に骨折をしまして、ちょうど3か月が経ちまして随分良くなってまいりました。走ったりはできないんですけども、日常生活には支障ないようになりましたのでご心配をおかけしていましたが今のところ大丈夫です。というところで、第1班の報告をしていきたいと思っております。9月4日金曜日、18時より青木会員の店「楓」で開催しました。班長は村上堅二会員、メンバーとして遠藤敦パスト会長、石部辰雄会員、前原俊治パスト会長、青木大会員、車田裕介会員、そし

て書記としてわたくし諸橋和典、7名全員出席で行うことができました。議題どおりに進行しまして、まず最初に「35周年記念事業としておこなってみたいこと」ということで、いろいろメンバーから聞きましたところ、高校生を中心とした野球大会などはどうか、それとこういった時期なので外部との交流が難しいのではないかと、ロータリー内部の回顧をきちんと西ロータリーの今まで何をやってきたかということをもとめて画像化したり映像化したりして、DVDなどを作ってそういったものを例会で流して会員に再度振り返ってもらうのはどうかなという意見がでました。それともう一つ、なかなかメンバーからすると良いアイデアがでないので、若い人たちから何かやりたい事業をアイデアを募集するというような事業もどうかなというものでました。そこでいろいろと話してた中で、国際奉仕委員長である青木大会員から米山交換留学生のミャンマーから来ているチョウ・ナンダ・トゥンさんといろいろと話したところ、ミャンマーでは通学に使う鞆があまりないということで、中学生や小学生からリュックやランドセルなどを集めて、それをミャンマーに送ったらどうかというような話がでました。これは本当に参加メンバー非常に良いのではないかと、ロータリーとして中学校からリュックサックなどを集めて米山留学生のチョウ・ナンダ・トゥンさんを通してミャンマーに寄付したらどうかというようなことがでて、是非それを実現化していこうというような話になりましたので、担当の方ご検討よろしくお願いいたします。続きまして、2番の「現在から未来に向けて私が考える西ロータリーの存在意義」ということで、これは非常に難しいテーマですけれども、前原会員から仕事以外の知り合いが少ない中、縁があって西ロータリークラブに入会してとても楽しいということがでました。それはやっぱり、親睦が重視されているということと、四つのテストというのがあって、それがとても生活の中とかそういったことに役立っているというようにお話を聞きました。ということで、その四つのテストというのがロータリークラブの存在意義なんじゃないかなということがでました。いろいろ話していく中で、ロータリークラブの本質的な目標というのは何かということになって、奉仕なのか親睦なのかということがでました。その中で、親睦を深めることによってよりみんなの協力が得られて、良い職業奉仕だったり高い奉仕ができるんじゃないかなということも言われてました。ということで、親睦を深めることが非常にロータリーの活動意義としては大きいんじゃないかなということなんです。ホームミーティングはどの程度他のクラブでやられているかわからないですけども、ホームミーティング事態は親睦を深めるための活動とすれば、非常良い活動なんじゃ

ないかなというようなことを皆感じていたようです。また、青木会員のところで非常に美味しい食事もいただきまして、持ってくるのが面倒くさいのか私のところには3リッターくらい入るビールジョッキを持ってきていただきまして、濃厚接触を避けるためかわからないですけど、非常に大変美味しいお酒と食べ物を食べることができました。その会場を作っていただきました青木会員、そして給仕していただきました青木会員の奥様に感謝申し上げます。第1班のホームミーティングの報告とさせていただきます。

○第2班

十文字光伸会員



皆様、こんばんは。第2班書記の十文字です。先日、9月4日金曜日、18時30分より「牛楽」さんにて第1回のホームミーティングを行いましたので報告をさせていただきます。参加者は、池田班長、吉野会長、堀田幹事、富永章会員、吉田充会員、佐藤幸彦会員、書記十文字の合計7名で行われました。

まず初めに、テーマ1の「35周年記念としておこなってみたい事業について」ですが、こちらにつきましては、まず初めに洪沢栄一さんに関連する事業を南湖公園で何かできないかそういった意見や、南湖神社に植林をするといった南湖公園、南湖神社をベースとした事業案がでております。次に、先程の第1班と一緒にいるんですが、米山記念奨学生のチョウ・ナンダ・トゥンさんの出身国であるミャンマーでは、小学生のランドセルが不足しているという情報がございましたので、こちらに対して寄付を行う事業案です。その際に、スマイル金の一部を充ててみてはどうかというご意見もでておりました。その他、中学生を交えたボランティア関連の事業案ですが、特に進学を控えた学生さんは社会奉仕活動することによって内申書等にも良い影響が出るのではないかと、谷津田川周辺や南湖公園、小峰城周辺のごみ拾いなどのボランティア事業が挙げられております。また、現在予定しています野球大会につきましては、コロナの影響が今後どうなるかによってはテニスやバレーボール、他にも検討をする必要があるのではないかと、谷津田川周辺や南湖公園、小峰城周辺のごみ拾いなどのボランティア事業が挙げられております。また、現在予定しています野球大会につきましては、コロナの影響が今後どうなるかによってはテニスやバレーボール、他にも検討をする必要があるのではないかと、谷津田川周辺や南湖公園、小峰城周辺のごみ拾いなどのボランティア事業が挙げられております。また、現在予定しています野球大会につきましては、コロナの影響が今後どうなるかによってはテニスやバレーボール、他にも検討をする必要があるのではないかと、谷津田川周辺や南湖公園、小峰城周辺のごみ拾いなどのボランティア事業が挙げられております。また、現在予定しています野球大会につきましては、コロナの影響が今後どうなるかによってはテニスやバレーボール、他にも検討をする必要があるのではないかと、谷津田川周辺や南湖公園、小峰城周辺のごみ拾いなどのボランティア事業が挙げられております。

好な関係を築けて楽しんでいるからではないかといった意見もございまして、今後も各会員がしっかり役割や役目を果たし、楽しんで活動をしていくことが白河西ロータリークラブの未来への在り方であり、組織の強化発展にも繋がっていくのではないかと話になっております。また、二次会等もございまして、私はちょっとお酒が飲めないというアルコールが弱い体質で、書記ということで参加させていただきました。案の定、二次会では酔うことがないので意外とぼつんとすることがございましたが、会長、幹事に暖かくサポートしていただき、先輩方の気遣いとか心優しいサポートに対しまして御礼を申し上げながら、そして班の皆様いろいろな面倒を見ていただいたことを感謝申し上げますながら第2班の報告とさせていただきます。

○第5班

熊澤直紀会員



皆様、おばんでございます。5班の熊澤です。それでは、5班のホームミーティングの報告をさせていただきます。まず、私は班長だったんですね。書記が根本会員なんですけど、ちょっと例会に出席できないということで代わりに私が発表いたします。他にメンバーは、中目会員、鳴島会員、渡部(則)会員、大住会員、横田会員なんですけれども、渡部会員と大住さんはお仕事の都合上、ちょっとご欠席ということですし、横田さんも職業奉仕ということで急遽欠席ということで、7名中結局4名ということでちょっと寂しかったんですが、おとといの9月8日火曜日、「アジアン」で行いました。4名ではあったんですけども。直前会長と前前会長がいらっしゃいましたので、かなり真面目に真剣に論議をさせていただきました。まず、二つ目の議題の「35周年記念としておこなってみたい事業について」であります。まずは一般的なご意見で記念植樹とか学校等への寄付、現在のコロナの状況を踏まえてマスクや防護服の寄贈とか一般的なご意見もありましたけども、その他にはいつも大変会員でそのご家族にもご迷惑かけたりいろんな支援もいただいておりますので、その会員の家族への慰労を目的にG o T oキャンペーンなんかも活用しながら、温泉旅行とか日帰りバス旅行とか案も出たんですが、結局コロナの状況も踏まえてなかなか旅行は難しいだろうなみたいなこんな話もありました。結局、今回は10年単位の大きな節目ではなくて5年単位ですので、盛大な事業というよりは過去の5年単位の事業にならって会員全員がこのロータリーに対する思いを綴る文集にまとめるというようなご意見でまとまった感じでございます。続きまして、二つ目の議題の「白河西ロータリークラブの存在意義、在り方は」ということな

んですが、いろいろなお意見がでたんですけども最後のまとめとしては、現在の白河西ロータリークラブの立ち位置は親クラブであります白河西ロータリークラブさんよりも会員数が多い58会員所属しているという、県南地区最大規模のロータリークラブであるということが本当に大きな存在意義であるということです。これは過去、いろんなあらゆるルートで先輩が後輩を紹介するという良い伝統がありますので、是非この良い伝統を継続しながら会員数を維持、もしくは拡大してその存在意義を継続していくと、こういった意見でまとまりました。それから、あとはホームミーティング自体の感想もふまえて非常に良かったねということでして、会員の中目会員と渡部会員からそれぞれ日本酒とウイスキーの差し入れもいただいて、かなり酒量も多くて翌日体も私かなり痛んでたんですけど、あとは根本会員の美味しい料理もいただきながら会を進めたんですけども、そういったお酒も交えて会員の皆さんと楽しくゆっくり話すことができた。そんな中で、普段こういった例会では聞けないロータリークラブの過去のいろんな歴史とか、それから様々なイベントとか、そういった貴重なお話も聞くことができましたということで、コロナの影響でちょっと参加メンバーが少なかったのは残念だったんですけど、やっぱりホームミーティングそのものの目的とか意義とかその良さを改めて感じることができましたので、そういうのを是非存在意義として継続していきたいと、こんなご意見でございました。

○第6班

大竹憂子会員



皆さん、こんばんは。6班の書記を務めました大竹憂子です。6班のメンバーですが、班長が三瓶徹会員、参加者は鈴木典雄会員、安部和夫パスト会長、永野文雄パスト会長、居川孝男パスト会長、櫻岡敏之会員でメンバーは7人なんですけど、参加者は6人で班長の三瓶会員が参加できなかったのもので、それで鈴木会員に代理班長を務めていただきました。まず、テーマ1の「35周年記念としておこなってみたい事業」ということだったんですが、2班で出ましたが私共の6班でも渋沢栄一関連で白河の観光にプラスになるようなものをゆかりある場所に何か建てる設置する、そんなふうなのはどうかという意見がありました。それからあとはG K B、先日の大会の様子だったり結果などを発表するのもいいんじゃないかという話が出て、またそのG K Bの時に中学生と子供たちと一緒に今後、奉仕活動をしたいという先生方の話とかもあったのでという話もちょっとさせていただきました。それから、小峰城や南湖公園に以前ベンチを寄贈したことがあるがそれ

がもう随分古くなってるので、改めて小峰城や南湖公園にベンチを寄贈するというのはいかがかという意見もありました。それから、ミャンマーの留学生にお話を聞いた時に鞆が不足しているということで、使わなくなったランドセルもみんなで集めて送るという事をやってみたらどうかという話になりまして、その子供たちと一緒に奉仕作業とか、ミャンマーに鞆を贈るとか、そういうのを35周年を機に今後続けていけたらいいなという話をしました。続きまして、テーマ2のほうですが「現在から未来に向けてという私たちの考える白河西ロータリーの存在意義、在り方」ということで、まず最初に話になったのが、若いメンバーには毎週の例会は大変かなという話がでて、出席率が悪いので西ロータリーをよくわかっていなくてという話がでたりしたんですよ。そうすると、先輩方が参加していると自然にいろいろと学べるよって、互いに仕事を回して助け合うこともできるしとか、いろんなお話を聴けたのがすごく勉強になりました。また、メンバーの人数なんかに対してもいろんな意見が出まして、メンバーを100人にしたいとかいう話がありまして、これはメンバーが多いと活動の幅だったりとか、中身、内容、そういうものがいろいろと広がりを持つことができ、いろんな可能性を見出せるということで、人数を増やしたいという話でした。それと反対に、現状維持がいいという方もいらっちゃって、今現在、県南で一番人数も多いので他のクラブとのバランスを保つという意味も込めて現状維持がいいかなという、そういうお話もありました。最後に皆でこんなことを言っていたんですけど、出席して顔を合わせるのが大事。それから、このようなホームミーティングが大事。そして、永野さんの存在が大事、そんな感じで皆で楽しく会話をして終わりました。

○吉野敬之会長



開会の時より、若干というかかなり嫌な予感はしていたのですが、毎回ホームミーティングの発表と申しますと、笑いに包まれてるお話は結構あるんですが、なかなか場が持たないといえますかそんな時間もたないで、さっき幹事とも多分春の第2回ホームミーティングの発表は1日くらいでいいんじゃないなんて、ちょっと変えましょうかなんて話をしてまして、もしその日どうしても発表者が来れなければ翌週にちょっとやってもらうとか、2週に渡ってこの貴重な例会の時間を費やすのはいかがなものかなんていうふうに思っていたんですが、先程来皆様から貴重なご意見を拝聴いたしまして、大変ありがたく、また興味深く聞かせていただきました。私は先程の話の中で第

2班でお話をさせていただいたんですが、まずこんなに難しいテーマを出すから話にならないだろうってあるパスト会長の方から言われまして、最近私も会長会長なんて言われて若干いい気になってたんですけど、やっぱりそこには先輩後輩の絶対的な縦社会が存在しておりまして、大体お前がこんな難しいの出すから他の班は多分議論になんねえぞなんていう事を言われまして、挙句の果てにメンバーを増やす話になりましたら、大体地区から言われたからってお前4人とか8人とか、そんなに勝手に8人増やせなんて言ってる地区の意見にふんふん言ってるお前もどうなんだみたいな話になりまして、他の班でもきっとこれぐらい激論があったのかなと。ただ、発表の時点は私にお気遣いをいただいてかなりそのせめぎあいの部分はオブラートに包んで今日発表されなかったかなというふうに思って、今うんうんと何人かがうなずいておりましたが、まず本来的にはホームミーティングのテーマというのは結論ありきとかそういったことではなくて、皆さん方が毎回言っておられるように、また今回大竹会員のほうからお話があったように、こういうホームミーティングをやって皆でいろんなことを喧々諤々話をしたり、昔の話をしたり、今の何か議題になるようなことを話をしたりというような中で懇親を深めてパイプを深めるということが一番の目的だと私は思ってます。その中で、ロータリーの公式行事としてやる以上、ただの飲み会というわけにいかないだろうということで、そこで登場したのがこのテーマだと思いますので、このテーマが結論があったり議論の末に何かを導き出さなければいけないというような趣旨のものでないというふうには認識しております。ただそれにしても、確かにちょっと難解なテーマだったのかなというふうには若干某先輩から言われたので謙虚に受け止めて次回には反映させたいと思うのですが、この1番目のテーマに関しましては、5年前も30周年の時には私ちょうど幹事だったので、こんな議題を出して皆さんからご意見を集約したなというふうに思いだしてこのテーマを付けさせていただきました。そしたら、今回どうも情報漏洩がかなりあったみたいで、各班からランドセルの話が沢山出ておまして、どこかから多分情報が漏洩してるんだなと思いましたが、もうほぼこれはここまで各班の話し合いの中でこれいいんじゃないという方向性が導き出されているので、実行委員長からも実は私もそういうお話を聞いて、実行委員長が非常に良いお話をさせていただいたので前向きに進めましょうと。具体的に、チョウ・ナンダさんが今ちょっと母国のほうに戻れなくて、その辺の連絡等が実態調査とかがわからないので、ちょっと進み方が遅いけど出来ればそういうふうにしていきたいというお話は実行委員長を中心に、国際奉仕の青木委員長と共に

徐々に固まりつつあるというふうなのが現状だそうなので、これは何とか形になるといいなと思っております。それも含めて、皆さんからいただいた渋沢栄一公に関わる事業であるとか、記念植樹であるとか、そういったことを参考に35周年実行委員会の中でこれを参考に話をさせていただきたいなというふうに思っております。2番目のお話は、先週の例会で私もお話させていただいたんですが、先程のメンバーの増強のところにも多少かかる話かなとは思いますが、私がこの立場で個人的な話というのも変なんですけど、私見も入るかもしれませんけどロータリークラブのR I から各地区に活動方針が示された中で行っていくものと、実際にこのロータリーの単クラブで行っていくことというのは、若干似て非なるものの部分というのがあるという実感は私は持ってますし、それ実体だと思えるんですよね。例えば、口の悪い人は上納金なんて言いますが、人頭分担金等々言ってR I に収める金額であるとか、そういったものはR I の活動を支えるための活動資金として非常に必要であるけど、正直そんなことを言っちゃいけないのかもしれませんが、僕らの周りにポリオの人は誰もいないのでポリオの為にお金使うんだったらば、身の回りのちょっと生活が困難だったり、生活弱者であったり、今であればコロナで苦勞されてる方達に直接お金を届けたほうがいいのではないかなと思う方も多分いっぱいいらっしゃるって、それが実際のR I という組織の中にいる我々として実際にR I が目指すものと、私たちの実情の違いがそこには絶対あるのではないかという思いがまずあります。それに関して、その中でこの前もお話しましたが、R I の思いを伝えてメンバーを募集しても果たしてそれを知らない方にお話した時に伝わるのかなと。こういうふうな奉仕をするためにポリオの為にお金を出して等々わかりやすく説明しても、多分それは勧誘する方には響かないものだと思うので、そういったものを一度自分たちの言葉に置き換えるといいますかチェンジして皆さんにお伝えするとしたら、どんなことがお伝えするにはふさわしい言葉であったり、内容なのかなということ、ちょっとこれから考えていく必要があるのではないかというように話を話し合っただけというふうなことで、先週お話をさせていただいた次第でございます。こうやってお話しても若干また難しい話になるのかもしれないですが、これが会員拡大に繋がっていく根本であり、今後その会員拡大をしていく中で入っていただく方が次世代といえますか、今後のロータリークラブ西クラブの根幹を支えていく人材に育っていくのだとすれば、やはりその人たちをしっかりと誘うために私たちはどういう事を伝えて、どういうメンバーを集めて、どういう人たちと手を加えて手を繋いでやっていく必要があるのかなというこ

とを、毎年毎年皆さん考えてらっしゃるとは思うんですが、この週年という5年という節目で考えてみるのもいいんじゃないですかという思いでお話をさせていただきました。先日のホームミーティングの時に、そのお話をしたら地区が8人って勝手に決めてそんなの押し付けられて、それをうんうんと言ってるお前はどうかだというふうなご意見も頂戴しましたが、やはり数は力とさっき第5班の発表で、現状県南最大クラブでやっぱり数は力だっというふうなお話が熊澤会員からありましたけど、やはりそれは実際そうだと思うんですよね。私も増やせるだけ増やしてもいいんじゃないかなというふうに若干思っています。これでもう70でいっぱいだよとか、80でいっぱいだよじゃなくて、どんどん増やせるものなら増やすのはそれは構わないと。ただ、これ強引に増やすというよりはやっぱりそういうふうな魅力のあるクラブになれば自然と増えていくと思うので、そういうふうな増やすというよりは増えるというふうなクラブ運営をしていきたいと思うし、そのために皆さんにいろいろとお知恵を拝借できたらなと思ってこんなお話をさせていただきました。実際には、来週またほかの班のご意見等をお伺いして、実はこういう難解な取りまとめは私も頭の出来があんまり良くないのでビジョン推進委員長宮本先生のほうにこの話を振って、最終的にそういったところを議論して、方向性を決めていただいてまとめていただきたいをお願いをして委員長を引き受けていただいておりますので、きっと皆さんが目から鱗が落ちるような素晴らしい方向性を宮本先生が見出していただくと私は信じておりますので、最後に下駄を預けたように申し訳ございませんが、そういった趣旨でやらせていただきました。本当に皆さん方から貴重な意見が出てるのが嬉しいですし、何よりも本当に皆さん方が楽しい懇親の場を持たれたのだなというふうに皆さんの発表を聞いて伝わってまいりました。それがまた、一番の私の喜びだなと思います。それがあればやっぱり西クラブの結束は崩れず、また更に前進していけるのかなと、今4つの班の発表でしたけどそういうふうな思った次第でございます。最後にお願いです。できれば、来週はわたくしにお話が回らないように、是非皆さん5~6分から10分程度の内容をしっかりと作ってきていただいて発表していただければ本当に幸いです。